

IZUTSUYA

IZUTSUYA

第127期

事業のご報告

2021年3月1日から
2022年2月28日まで

IZUTSUYA

IZUTSUYA

井筒屋は 「奉仕こそ繁栄の基」

という奉仕の精神を日常の実践的心構えとし

「秩序のうえに立つ創造的繁栄」

をはかることを経営理念と定めています。

目 次

株主の皆様へ	2
事業の経過およびその成果	2
対処すべき課題	4
財産および損益の状況の推移(連結)	5
連結子会社	5
財産および損益の状況の推移(個別)	6
商品別売上高(個別)	6
財務諸表(連結)	7
(個別)	9
井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画	11
トピックス	12
CSR活動	13
井筒屋グループ百貨店 および主要なショップ	15
株式の状況	17
会社の概要	18
従業員の状況	18
取締役および執行役員、監査役	18
株主優待制度のご案内	19
株主メモ	20
ホームページのご案内	21

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、当社は、さる2月末日をもって第127期(2021年3月1日から2022年2月28日まで)事業年度を終了いたしましたので、事業の概況につきまして、ご報告申し上げます。



代表取締役 **影山 英雄**

事業の経過およびその成果

当期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染対策にあらゆる施策を講じながら、社会経済活動を継続していく中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあり、景気を持ち直しが期待されますものの、世界的なサプライチェーンの停滞や原材料価格の動向による下振れリスク、金融市場の変動など懸念材料も多く、いまだ先行き不透明な状況が続いております。

百貨店業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業や営業時間の短縮をはじめ、大型催事の中止など営業機会の縮小による入店客数の大幅な減少や、インバウンド需要の激減などにより、いまだ厳しい営業活動が続いております。商況は徐々に復調の兆しが見え始めておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準には至っておりません。

こうした厳しい状況の中、当社グループにおきましては、経営資源の選択と集中を基軸とした「井筒屋グループ中期3ヵ年経営計画(2019年度～2021年度)」を推進してまいりました。最終年度となる当期は、ラグジュアリーブランドのリニューアルをはじめ、商品・サービス両面において百貨店らしさを追求するとともに、徹底した経費構造の見直しを行うことによる収益強化に努めてまいりました。

当期における当社グループの業績につきましては、コロナ禍において極めて厳しい商況の中、地域のお客様に支えられながら、百貨店業を中心とした諸施策を講じてまいりました結果、売上高は531億44百万円(前期比105.2%)、営業利益は12億84百万円(前年同期は12百万円の営業利益)、経常利益は10億47百万円(前年同期は1億65百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する当期純利益は11億71百万円(前年同期は1億11百万円の親会社株主に帰属する当期純利益)となりました。

	井筒屋グループ	株式会社井筒屋
売上高	53,144百万円 (前期比 105.2%)	46,449百万円 (前期比 105.7%)
営業利益	1,284百万円 (前期比 -%)	1,350百万円 (前期比 807.1%)
経常利益	1,047百万円 (前期比 -%)	889百万円 (前期比 -%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,171百万円 (前期比 -%)	—
当期純利益	—	1,006百万円 (前期比 -%)

【百貨店業】

当社グループの主要事業であります百貨店業におきましては、高額品消費や家中関連需要などの好調なカテゴリーを強化するとともに、コロナ禍におけるお客様の生活様式の変化や地元消費喚起に対応するべく、販売チャネルの拡充やデジタル活用、様々な地域活性化の取り組みへの参画などを推し進めてまいりました。

好調カテゴリーの強化として、本館1階インポートブティックゾーンでは、昨年3月の「ルイ・ヴィトン」リニューアルに続き、10月から12月にかけて「コーチ」、「グッチ」、新館1階「ボッテガ・ヴェネタ」ショップのリニューアルを図るとともに、新規ブランド「サンローラン」、「バレンシアガ」のオープンなど、ラグジュアリーカテゴリーの品揃えを充実させてまいりました。

家中関連需要への対応につきましては、デンマークの高級インテリアショップ「BoConcept(ボーコンセプト)」を無印良品跡地に新規オープンし、百貨店らしい上質な品揃えとライフスタイルの提案を図ってまいりました。また、本館地階食品フロアでは、地元で長年愛されている創作料理の店「一椿」を新しくオープンいたしました。

地元消費喚起への取り組みといたしましては、プレミアム付き地域商品券事業への参画をはじめ、お中元ギフトを活用した北九州市の「地元の逸品支援事業」では、地元お取引先様支援のための送料無料企画を実施し、大変ご好評をいただきました。

販売チャネルの拡充・デジタル活用におきましては、SNSやホームページを通じファッションやライフスタイルなどをご提案する機会を増強するとともに、チラシ掲載商品を電話やオンラインで購入いただけるリモート販売の推進に努めております。また、デパ地下商材を当日配送できる「食品宅配サービス」の配送

エリアを拡大し、お客様の利便性向上に努めてまいりました。

サテライトショップにおきましては、昨年8月にサンリブ若松内「若松ショップ」、本年2月に「市庁舎売店」を閉店いたしました。

長年のご愛顧に心より感謝申し上げます。

既存店舗につきましては、引き続きコロナ禍に対応した営業施策の見直しや運営体制の効率化など、収益性の改善を図ってまいります。

山口店におきましては、昨年3月に山口市と地域活性化を目的とした包括連携協定を締結し、中心市街地の活性化や地産地消の推進、市政情報の発信などの協力を図るため、地域の魅力を発信する交流スペース「コトサイト」を11月にオープンいたしました。また、商品施策として、若年層や働く女性のニーズにお応えするべく、1階にフレグランスコーナーやオーガニックヘアケアを中心とする「グラーヌアヴェダ」を新たにオープンし、ご好評をいただいております。

持続可能な社会への取り組みといたしましては、サステナビリティ基本方針を定め、環境保全と経済成長の両立による企業価値の向上と事業基盤の強化、地域社会との共創によるまちづくりへの参画および働きやすい職場環境の整備や多様な人材が活躍できる機会の創出等を掲げ、取り組んでおります。

全社で取り組む「サステナブルアクション2021」、カーボンニュートラルへ向けた環境目標ならびに実績およびその他ESGに関する取り組みにつきましては、当社ホームページのCSR欄に掲載しております。

こうした諸施策を講じる中で、当社グループは、コロナ禍においてお客様の安全を第一に考え、感染

拡大防止策をお客様にご協力いただきながら徹底いたしております。

引き続きお客様に安心してお買い物いただける環境と、魅力ある品揃えやサービスの提供に努めてまいります。

百貨店業における売上高につきましては、531億44百万円(前期比105.2%)、営業利益は14億78百万円(前期比719.4%)となりました。

【友の会事業】

株式会社井筒屋友の会が前払式の商品販売の取次を行っており、外部顧客に対する売上高はなく、業績につきましては、営業損失8百万円(前年同期は10百万円の営業損失)となりました。

対処すべき課題

今後の経済環境につきましては、ワクチン接種等の感染対策の浸透や政府・自治体による各種政策の実施効果により、経済の自律的回復力が高まることが期待されますものの、長引く国際的緊張の高まりをはじめ、世界的なサプライチェーンの停滞、原材料価格の動向による下振れリスク、金融市場の変動など不安要因も多く見られ、依然として先行き不透明な状況が続くものと思われま。

このような状況の下、当社グループでは、新たに「井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画(2022年度～2024年度)」を策定いたしました。コロナ禍により加速・顕在化した環境変化を踏まえ、本計画は従来型の規模や量を追求する事業モデルを見直す契機と捉え、量から質への新たな事業モデルへの道筋をつけるものとしております。

対処すべき課題として位置づけておりますものは、次のとおりであります。

- 店舗における百貨店らしさを追求するべく、好調カテゴリーの強化を図るとともに、百貨店の強みを活かした編集売場を構築することにより、店舗価値の向上および売場の活性化に努めてまいります。
- SNS活用による効率的な販売促進活動の拡大や、社内業務の見直しによる効率化を推進し、収益性の維持・向上を図ってまいります。
- 中長期の政策といたしまして、デジタルデバイスを活用したお客様の利便性の向上および効果的な営業施策の実施を目指すべくデジタル戦略を推進してまいります。

以上を当社グループの対処すべき課題とし、これまで取り組んでまいりました事業構造改革を定着・発展させ、将来にわたる安定的な収益基盤の確立と、財務体質の健全化に努めてまいります。

株主の皆様には倍旧のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

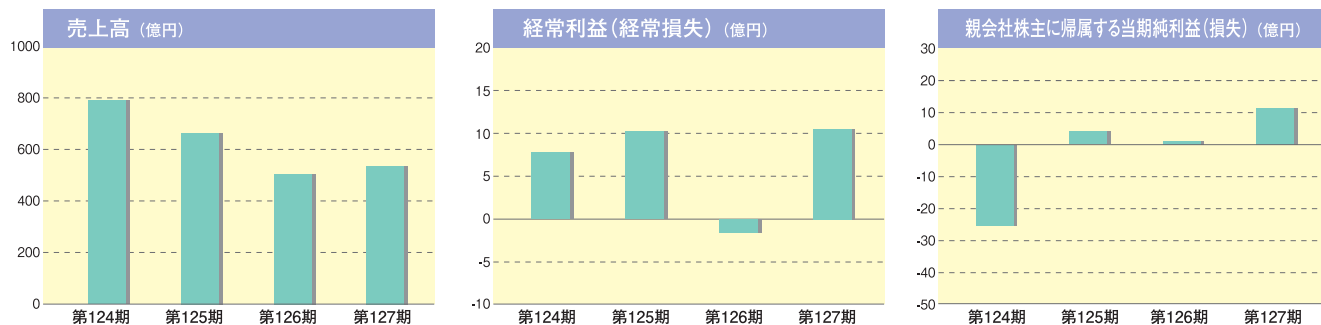
2022年5月

代表取締役 影山英雄

財産および損益の状況の推移(連結)

区 分	第124期 (2018年3月から 2019年2月まで)	第125期 (2019年3月から 2020年2月まで)	第126期 (2020年3月から 2021年2月まで)	第127期 (2021年3月から 2022年2月まで)
売 上 高 (百万円)	78,955	66,145	50,534	53,144
経常利益または経常損失(△) (百万円)	795	1,030	△ 165	1,047
親会社株主に帰属する当期 純利益または当期純損失(△) (百万円)	△ 2,459	409	111	1,171
1株当たり当期純利益 または当期純損失(△) (円)	△ 214.65	37.75	9.73	102.21
総 資 産 (百万円)	54,491	50,339	47,987	47,300
純 資 産 (百万円)	7,643	8,113	8,257	9,029

※第125期より「税効果会計に係る会計基準の一部改正」を適用したため、第124期についても遡及適用後の総資産を記載しております。



連結子会社 (2021年3月1日から2022年2月28日まで)

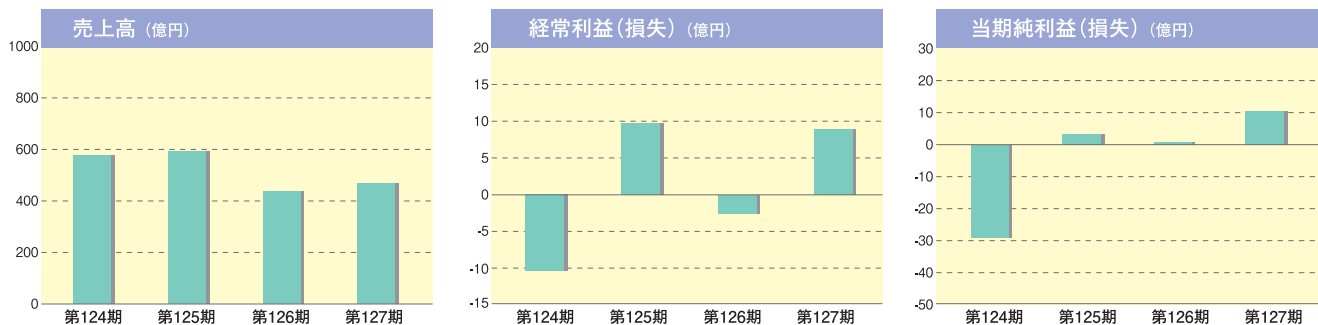
(株)山口井筒屋 (株)レストラン井筒屋

(株)井筒屋友の会 (株)井筒屋商事

財産および損益の状況の推移(個別)

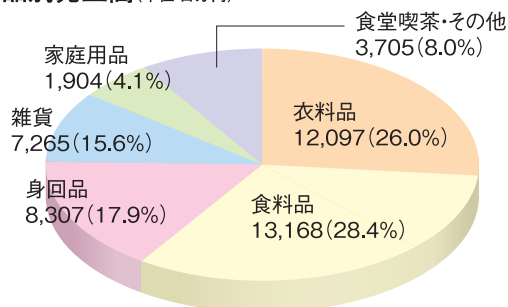
区 分	第124期 (2018年3月から 2019年2月まで)	第125期 (2019年3月から 2020年2月まで)	第126期 (2020年3月から 2021年2月まで)	第127期 (2021年3月から 2022年2月まで)
売 上 高 (百万円)	57,815	58,717	43,960	46,449
経 常 利 益 また は 経 常 損 失 (△) (百万円)	△ 1,040	983	△ 259	889
当 期 純 利 益 また は 当 期 純 損 失 (△) (百万円)	△ 2,950	319	22	1,006
1株当たり当期純利益 または当期純損失(△) (円)	△ 257.53	27.84	1.93	87.88
総 資 産 (百万円)	49,366	47,445	45,180	44,509
純 資 産 (百万円)	6,434	6,751	6,773	7,374

※第125期より「税効果会計に係る会計基準の一部改正」を適用したため、第124期についても遡及適用後の総資産を記載しております。



商品別売上高(個別) (2021年3月1日から2022年2月28日まで)

● 商品別売上高 (単位:百万円)



財務諸表(連結)

● 連結貸借対照表(単位:百万円)

資産の部	第125期 (2020年2月期)	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)
流動資産	8,839	7,958	7,534
現金及び預金	4,151	3,928	3,604
受取手形及び売掛金	1,663	1,511	1,546
商 品	2,433	2,041	1,989
貯 蔵 品	20	20	21
そ の 他	569	456	372
貸倒引当金	△ 0	—	△ 0
固定資産	41,500	40,029	39,766
有形固定資産	37,380	35,777	35,345
建物及び構築物	12,587	11,184	10,819
土 地	24,011	24,011	24,011
リ ー ス 資 産	166	132	60
建設仮勘定	—	11	1
そ の 他	616	438	451
無形固定資産	251	245	195
リ ー ス 資 産	154	153	112
そ の 他	97	91	83
投資その他の資産	3,868	4,006	4,225
投資有価証券	1,287	1,323	1,431
長期貸付金	140	—	—
差入保証金	2,143	2,037	1,980
繰延税金資産	38	270	451
そ の 他	463	431	415
貸倒引当金	△ 205	△ 56	△ 54
資産合計	50,339	47,987	47,300

負債の部	第125期 (2020年2月期)	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)
流動負債	27,682	26,897	26,378
支払手形及び買掛金	5,045	3,839	3,811
短期借入金	11,333	11,833	11,833
リ ー ス 債 務	136	131	73
未払法人税等	126	85	35
前 受 金	7,396	7,681	7,454
賞与引当金	57	55	56
ポイント金券引当金	219	149	127
設備関係支払手形	94	28	211
そ の 他	3,271	3,090	2,774
固定負債	14,543	12,832	11,892
長期借入金	9,177	7,843	6,509
リ ー ス 債 務	197	153	99
繰延税金負債	284	—	—
再評価に係る繰延税金負債	2,874	2,874	3,278
商品券回収損失引当金	792	788	854
退職給付に係る負債	947	818	783
資産除去債務	191	279	261
預り保証金	78	74	76
そ の 他	—	—	30
負債合計	42,225	39,730	38,270

純資産の部

株 主 資 本	2,347	2,458	3,629
資 本 金	10,532	10,532	100
資 本 剰 余 金	11,904	11,904	924
利 益 剰 余 金	△20,061	△19,950	2,632
自 己 株 式	△ 27	△ 27	△ 27
その他の包括利益累計額	5,766	5,799	5,400
その他有価証券評価差額金	14	13	21
土地再評価差額金	5,766	5,766	5,362
退職給付に係る調整累計額	△ 14	19	16
純 資 産 合 計	8,113	8,257	9,029
負債・純資産合計	50,339	47,987	47,300

● 連結損益計算書(単位:百万円)

	第125期 (2020年2月期)	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)
売上高	66,145	50,534	53,144
売上原価	50,820	38,958	41,013
売上総利益	15,324	11,576	12,131
販売費及び一般管理費	14,022	11,563	10,846
営業利益	1,302	12	1,284
営業外収益	917	776	862
受取利息	4	0	0
受取賃貸料	67	65	65
固定資産受贈益	126	—	—
協賛金収入	111	12	10
未回収商品券受入益	301	329	379
持分法による投資利益	106	57	111
助成金収入	—	198	184
その他の	199	113	111
営業外費用	1,188	954	1,100
支払利息	404	380	348
売上割引	399	325	381
商品券回収損失引当金繰入額	203	149	242
その他の	181	98	127
経常利益又は経常損失(△)	1,030	△165	1,047
特別利益	80	—	—
特別損失	413	187	5
税金等調整前当期純利益又は当期純損失(△)	697	△353	1,041
法人税、住民税及び事業税	46	51	51
法人税等調整額	241	△515	△180
当期純利益	409	111	1,171
親会社株主に帰属する当期純利益	409	111	1,171

● 連結キャッシュ・フロー計算書(単位:百万円)

	第125期 (2020年2月期)	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	619	887	1,978
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,394	△72	△833
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,474	△987	△1,468
IV 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,249	△173	△323
V 現金及び現金同等物の期首残高	6,350	4,101	3,928
VI 現金及び現金同等物の期末残高	4,101	3,928	3,604

● 連結株主資本等変動計算書(単位:百万円) (2021年3月1日から2022年2月28日まで)

項目	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	10,532	11,904	△19,950	△27	2,458	13	5,766	19	5,799	8,257
当期変動額										
減資	△10,432	10,432			—				—	—
欠損填補		△21,412	21,412		—				—	—
親会社株主に帰属する当期純利益			1,171		1,171					1,171
自己株式の取得				△0	△0					△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						8	△404	△3	△398	△398
当期変動額合計	△10,432	△10,980	22,583	△0	1,170	8	△404	△3	△398	772
当期末残高	100	924	2,632	△27	3,629	21	5,362	16	5,400	9,029

財務諸表(個別)

● 貸借対照表(単位:百万円)

資産の部	第125期 (2020年2月期)	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)
流動資産	7,994	7,125	6,701
現金及び預金	4,036	3,778	3,503
受取手形	11	7	7
売掛金	1,465	1,323	1,337
商品	2,012	1,639	1,552
貯蔵品	16	15	16
その他	451	360	284
貸倒引当金	△ 0	—	△ 0
固定資産	39,451	38,055	37,807
有形固定資産	37,174	35,602	35,199
建物	12,395	11,012	10,669
構築物	50	43	39
什器備品	551	391	415
土地	24,011	24,011	24,011
リース資産	166	132	60
建設仮勘定	—	11	1
無形固定資産	243	237	187
リース資産	154	153	112
電話加入権	35	35	35
その他	53	48	39
投資その他の資産	2,033	2,216	2,420
投資有価証券	127	108	97
関係会社株式	81	81	81
長期貸付金	3,249	3,285	3,326
差入保証金	928	821	765
繰延税金資産	—	199	333
その他	388	358	342
貸倒引当金	△2,741	△2,638	△2,525
資産合計	47,445	45,180	44,509

負債の部	第125期 (2020年2月期)	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)
流動負債	26,930	26,296	25,901
支払手形	41	38	28
買掛金	4,283	3,211	3,197
短期借入金	16,233	16,733	16,733
リース債務	136	131	73
未払法人税等	109	59	10
前受金	144	309	297
預り金	2,944	3,072	2,910
賞与引当金	50	48	48
ポイント金券引当金	190	129	110
設備関係支払手形	92	28	210
その他	2,702	2,532	2,278
固定負債	13,763	12,111	11,233
長期借入金	8,473	7,240	6,006
リース債務	197	153	99
繰延税金負債	283	—	—
再評価に係る繰延税金負債	2,874	2,874	3,278
退職給付引当金	886	794	757
債務保証引当金	125	85	108
商品券回収損失引当金	673	637	644
資産除去債務	178	258	240
預り保証金	70	67	68
その他	—	—	30
負債合計	40,694	38,407	37,134
純資産の部			
株主資本	974	996	2,003
資本金	10,532	10,532	100
資本剰余金	11,904	11,904	924
資本準備金	11,904	11,904	924
利益剰余金	△21,434	△21,412	1,006
利益準備金	1,127	1,127	0
その他利益剰余金	△22,561	△22,539	1,006
繰越利益剰余金	△22,561	△22,539	1,006
自己株式	△ 27	△ 27	△ 27
評価・換算差額等	5,776	5,776	5,371
その他有価証券評価差額金	10	9	9
土地再評価差額金	5,766	5,766	5,362
純資産合計	6,751	6,773	7,374
負債・純資産合計	47,445	45,180	44,509

● 損益計算書(単位:百万円)

	第125期 (2020年2月期)	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)
売上高	58,717	43,960	46,449
売上原価	45,285	33,989	36,034
売上総利益	13,431	9,971	10,415
販売費及び一般管理費	12,026	9,804	9,065
営業利益	1,404	167	1,350
営業外収益	850	669	728
受取利息	50	48	49
貸倒引当金戻入益	84	—	90
債務保証引当金戻入益	14	15	—
固定資産受贈益	117	—	—
協賛金収入	104	12	8
助成金収入	—	170	156
その他の収益	479	423	423
営業外費用	1,271	1,096	1,189
支払利息	617	597	568
その他の費用	654	498	621
経常利益又は経常損失(△)	983	△ 259	889
特別利益	5	—	—
特別損失	407	187	5
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	581	△ 447	883
法人税、住民税及び事業税	19	13	10
法人税等調整額	243	△ 482	△ 133
当期純利益	319	22	1,006

● 株主資本等変動計算書(単位:百万円) (2021年3月1日から2022年2月28日まで)

項目	株主資本								評価・換算差額等			純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等 合計		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金							利益剰余金 合計
当期首残高	10,532	11,904	—	11,904	1,127	△22,539	△21,412	△27	996	9	5,766	5,776	6,773
当期変動額													
減資	△10,432	△10,980	21,412	10,432	△1,127	1,127	—	—	—	—	—	—	—
欠損填補			△21,412	△21,412		21,412	21,412		—			—	—
当期純利益						1,006	1,006		1,006				1,006
自己株式の取得								△0	△0				△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)										△0	△404	△405	△405
当期変動額合計	△10,432	△10,980	—	△10,980	△1,127	23,546	22,419	△0	1,006	△0	△404	△405	601
当期末残高	100	924	—	924	—	1,006	1,006	△27	2,003	9	5,362	5,371	7,374

井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画(2022年度～2024年度)について

当社グループでは、新たに「井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画(2022年度～2024年度)」を策定いたしました。本計画につきましては、コロナ禍により加速・顕在化した環境変化を踏まえ、従来型の規模や量を追求する事業モデルを見直す契機と捉え、量から質への「新たな事業モデルへの道筋をつける中計」と位置づけ、中長期の戦略実現に向けた検討・準備と、グループ保有資産の更なる強化に努めてまいります。

1. 当社グループのビジョン

グループビジョン:「地域小売業のリーディングカンパニーとして発展していく」

事業戦略 サステナビリティを基盤とした“質”の追求。

当社グループに関わる全てのステークホルダー(顧客、取引先、従業員、株主)ならびに地域社会とのつながりの“質”を深化させ、地域共創基盤として持続可能な地域社会の発展に寄与してまいります。

営業戦略 リアルとデジタルの両面からお客様へ上質な人生を提案する。

顧客情報を統合し諸施策に活用することで、店舗やネットショッピング等複数のチャネルを通じて顧客ニーズへ対応してまいります。

2. 戦略の方向性

短中期

●店舗における百貨店らしさの追求(競争優位性の確立・差別化)

自主編集運営ゾーンの刷新等による店舗価値の向上を図ってまいります。

●効率的な店舗運営と効果的な販売促進体制の維持(収益性の維持・向上)

SNS活用等効果的な宣伝経費運用により高収益構造の維持に努めてまいります。

中長期

●デジタルデバイスを基軸とした顧客単価向上(顧客接点の創造)

井筒屋アプリの導入により顧客統合基盤を構築し、効率的な営業施策を推進してまいります。

●優良顧客基盤×デジタルデバイスの活用(新たな収益基盤の確立)

将来的には、統合された顧客情報を活用し、顧客の求めるソリューションを提供してまいります。

3. 本中計1年目(2022年度)の数値目標

連結業績	目標値(2022年度) 本中計1年目 ※収益認識基準適用後	実績(2021年度) ※前中計最終年度	目標値(2022年度) 本中計1年目 ※収益認識基準適用前	対 比
売上高	228億円	531億円	524億円	△7億円
営業利益	9億円	12億円	12億円	△0億円
営業利益率	3.9%	2.4%	2.3%	△0.1%
経常利益	7億円	10億円	7億円	△3億円
経常利益率	3.1%	2.0%	1.3%	△0.7%

現時点におきましては、中計1年目となる2022年度の数値計画のみを策定し、中計2年目以降の数値計画につきましては、外部環境の影響による業績動向を踏まえた上、策定・開示を行ってまいります。

トピックス

〈小倉店 本館〉 1階 リニューアルコーナー



1921年イタリアのフィレンツェで高級皮革製品店を設立したことから、グッチの歴史は始まります。「最上の伝統を最上の品質で、しかも過去のよいものを現代に反映させる商品作り」をコンセプトとし、性別・年代を問わず人気の高いラグジュアリーブランドです。



コーチは、1941年にニューヨークで創立されたグローバルファッション・ブランドです。クリエイティブ・ディレクターのスチュアート・ヴィヴァースのビジョンと、ニューヨークのインクルーシブで勇気あふれる姿勢からインスパイアを受けたコーチは、あなたが自分らしさを体現できる、美しく、永く使い続けられる製品を作り続けています。

〈小倉店 新館〉 1階 リニューアルコーナー



1966年にイタリアのヴィチエンツァで創業の高級ラグジュアリーブランド。ポッテガヴェネタの不可欠なシンボルとして、卓越した職人技によりレザーをメッシュ状に編み込んだ「イントレチャート」が世界的に知られています。

〈小倉店 本館〉 1階 ニューコーナー



サンローランは1961年にムッシュイヴ・サンローランが設立したフランスを代表するラグジュアリーブランドです。クリエイティブ・ディレクターのアンソニー・ヴァカレロによるレディース・メンズのハンドバッグ・革小物を取り揃えております。



バレンシアガは、1917年にクリストバル・バレンシアガによって創設され、現在はデムナがクリエイティブディレクターを務めるラグジュアリーブランドです。ウェアからシューズ、バッグ、革小物など、トータルで展開しております。



肌を本来の美しさへ導く皮膚科学に基づいたスキンケアと、クレンジング不要で肌にやさしいミネラルコスメをご提案いたします。

〈小倉店〉 ネットデパ地下



デパ地下商材を当日配送できる「食品宅配サービス」の配送エリアを拡大し、お客様の利便性向上に努めてまいりました。

〈小倉店〉 オンラインご相談サービス



遠方にお住まいの方や、なかなか外出ができない方にも安心してお買物を楽しんでいただけるよう、テレビ電話（Zoomアプリ）を使用し、小倉井筒屋でお取り扱いをしている商品をご覧いただくことができる「小倉井筒屋オンラインご相談サービス」がスタートいたしました。

〈山口店〉 交流スペース「コトサイト」



中心市街地の活性化や地産地消の推進、市政情報の発信などの協力を図るため、地域の魅力を発信する交流スペースをオープンいたしました。

〈山口店〉 ニューコーナー



可能な限りオーガニックにこだわり、ピュアな花々や植物エッセンスによるヘアケア、スキンケア、ボディケア製品等を展開するショップをオープンいたしました。

CSR活動基本方針

井筒屋グループは、「秩序の上に立つ創造的繁栄」を経営理念とし、CSR活動を経営の重要課題として位置づけ、地域小売業のリーディングカンパニーとして発展していくことを目指しています。私たちはESGの視点から、E：環境保全に関する活動、S：地域社会での貢献活動、G：ガバナンスの強化をそれぞれ積極的に推進し、将来にわたって持続的に取り組み、企業価値の向上に努めます。

CSR活動を推進するにあたり、下記のとおりサステナビリティ基本方針ならびにESGそれぞれの方向性や重点課題を定め、「地域共創」により持続可能な社会の実現に向け取り組んでまいります。

サステナビリティ基本方針

私たちは、店舗周辺の河川や公園などの公共空間を活かした「環境共生型百貨店」を、地域と共に創出してまいります。この「地域共創」により、かかわりのあるすべての人々の豊かな未来と持続可能な社会の実現に向け、役割を果たしてまいります。

井筒屋グループESGについて

サステナビリティ重点課題 (ESG×SDGs)

ESG視点	方向性	重点課題	SDGs(目標)
E(環境)	環境保全と経済成長の両立による 企業価値の向上と事業基盤の強化	脱炭素社会の実現	
		サステナブルライフの推進	
		サプライチェーン・マネジメント	
S(社会)	働きやすい職場環境の整備や 多様な人材が活躍できる機会の創出	地域活性化・賑わい創出	
		ワークライフバランスの充実	
		ダイバーシティ&インクルージョン	
G(ガバナンス)	コーポレートガバナンスの遵守	ガバナンス体制構築とリスクマネジメント	

○ 井筒屋サステナブルアクション ～ I Think. ～

サステナブルなモノやコトを通じてSDGsや地球環境について、持続可能な社会の実現と、豊かな未来を創造するために、井筒屋「I」も私たち一人ひとり「I」も、みんなで考え、行動し、積み重ねてまいります。



○ 井筒屋グループとして取り組んでいる主なサステナブル活動をご紹介します。

年間催事

サステナブル商品やライフスタイルの提案

サステナブルな天然・リサイクル素材を利用した環境に配慮した商品や、フェアトレード、エシカル消費などライフスタイルの提案を実施。



2021年9月～

アップサイクルへの取り組み

当社にて使用済みコピー用紙を回収後、紙資源として再生。NPO法人にて障がい者の方々の作業により、きたきゅうコロンブスの紙袋としてアップサイクルされ、同売場でお客様に提供する資源の循環活動。



2021年11月～

北九州市SDGs登録事業者認定

SDGsの達成に寄与する企業等の取組を「見える化」し、地域のSDGsの取組の誘発・加速を図る制度であり、2021年11月に第一次登録事業者として認定。



2021年7月～

「サステナブルライフ」ブログ開設

総務部CSR・ESG担当者発信のブログ。当社のCSR活動を、井筒屋facebookやLINEと連携し、YやZ世代などより幅広い層に向けPR。



2021年11月

クローゼットリサイクルキャンペーン

ご不要な衣類をお持ちいただき、500円のクーポン券を進呈。お寄せいただいた衣類は、北九州市内の工場で自動車内装材等の原材料にリサイクルされ、北部九州の自動車メーカーに提供されるアップサイクル活動。



2021年11月

森林保全クリスマスチャリティオーナメント販売

サステナブル活動の一つとして、当社が企画立案。「京築のヒノキと暮らすプロジェクト(ちくらす)」とともに、産学官で連携し、クリスマスオーナメントを制作・販売。売上の一部を森林保全活動に寄付するとともに、ご購入のお客様抽選20組を植樹会にご招待。



当社のCSR活動につきましては、当社のHPの「企業情報CSR」に掲載しております。

井筒屋ホームページ

<https://corp.izutsuya.co.jp/sustainability-report/>

スマートフォンの方はこちらから



井筒屋グループ百貨店および主要なショップ



本 店 〒802-8511
北九州市小倉北区船場町1番1号
電話 (093) 522-3111



山 口 店 〒753-0086
山口県山口市中市町3番3号
電話 (083) 902-1111



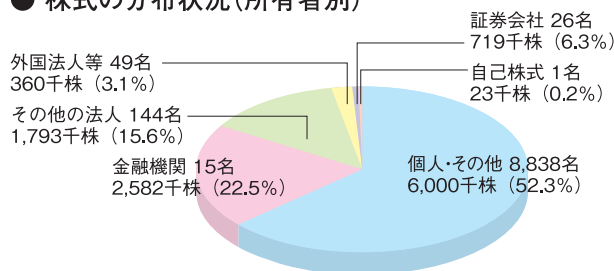
- 北九州空港店 北九州市小倉南区空港北町6番
〒800-0306 電話(093)475-0102
- 守恒ショップ 北九州市小倉南区守恒一丁目11番25号
〒802-0972 電話(093)963-4370
- 下曾根駅前ショップ 北九州市小倉南区下曾根新町10番1号
〒800-0221 電話(093)475-5671
- 戸畑ショップ 北九州市戸畑区汐井町2番2号
〒804-0067 電話(093)883-0040
- 二島ショップ 北九州市若松区二島一丁目3番1号
〒808-0103 電話(093)701-0655
- 高須ショップ 北九州市若松区高須南二丁目2番1号
〒808-0145 電話(093)741-3286
- イオンタウン黒崎ショップ 北九州市八幡西区西曲里町3番1号
〒806-0036 電話(093)643-5111
- 三ヶ森ショップ 北九州市八幡西区三ヶ森三丁目9番1号
〒807-0843 電話(093)613-3001
- 中間ショップ 福岡県中間市蓮花寺一丁目2番
〒809-0014 電話(093)246-2000
- 直方ショップ 福岡県直方市知古756
〒822-0022 電話(0949)24-0311
- イオンモール直方ショップ 福岡県直方市湯野原二丁目1番1号
〒822-0008 電話(0949)28-7390
- 田川ショップ 福岡県田川市日の出町1番3号
〒825-0012 電話(0947)45-2785
- 苅田ショップ 福岡県京都郡苅田町殿川町1番7号
〒800-0312 電話(093)436-2100
- ゆめタウン行橋ショップ 福岡県行橋市西宮市三丁目8番1号
〒824-0031 電話(0930)28-8273
- 飯塚ショップ 福岡県飯塚市枝国長浦666番48号
〒820-0081 電話(0948)22-3130
- 宗像ショップ 福岡県宗像市くりえいと一丁目5番1号
〒811-4184 電話(0940)35-6132
- 中津ショップ 大分県中津市蛭子町三丁目99番地
〒871-0065 電話(0979)23-8555
- 周南ショップ 山口県周南市銀南街33番地
〒745-0031 電話(0834)33-1228
- 宇部ショップ 山口県宇部市黒石北三丁目4番1号
〒759-0213 電話(0836)39-8887

株式の状況 (2022年2月28日現在)

● 株式の状況

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	11,480,495株
一単元の株式の数	100株
株主数	9,073名

● 株式の分布状況(所有者別)



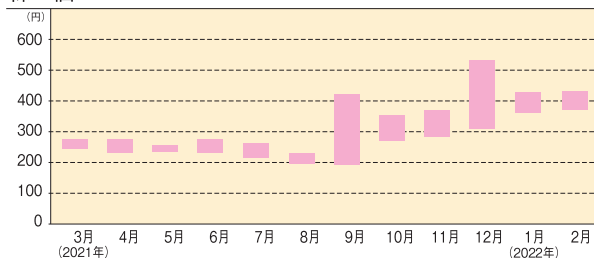
● 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
日本証券金融株式会社	1,235千株	10.8%
井筒屋共栄持株会	1,060	9.3
西日本鉄道株式会社	1,052	9.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	772	6.7
野村証券株式会社	266	2.3
株式会社SBI証券	209	1.8
株式会社北九州銀行	139	1.2
井筒屋社員持株会	130	1.1
合同会社INFINITY	110	1.0
株式会社日本カスタディ銀行(信託口)	107	0.9
合計	5,085	44.4

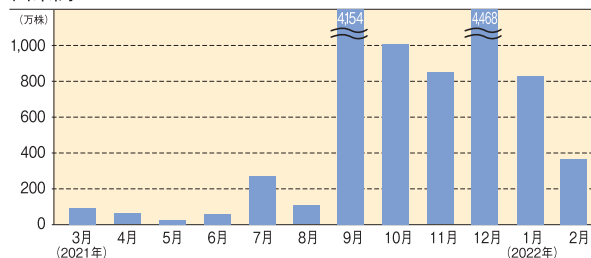
(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

● 株価および出来高の推移

株価



出来高



会社の概要 (2022年2月28日現在)

□ 設 立 1935年7月30日
 □ 開 店 1936年10月6日
 □ 資 本 金 100,000,000円

□ 事業内容 百貨店事業
 □ 本 社 北九州市小倉北区船場町1番1号
 電話 (093) 522-3111

従業員の状況 (2022年2月28日現在)

□ 井筒屋グループの従業員の状況

事業の種類別の区分	従業員の数	前期末増減
百貨店業	753名	40名減
友の会事業	1名	増減なし

□ 株式会社井筒屋の従業員の状況

区 分	従業員の数	前期末増減	平均年齢	平均勤続年数
男 性	235名	16名減	53.3歳	18.0年
女 性	411名	22名減	47.2歳	15.0年
合計または平均	646名	38名減	49.4歳	16.0年

取締役および執行役員、監査役 (2022年5月26日現在)

● 取締役および執行役員

代表取締役
社長執行役員 影山 英雄
 取締役
常務執行役員 兼石 一郎
 取締役
常務執行役員 吉田 功
 取締役
執行役員 松本 圭
 取締役 安田堅太郎 社外 独立
 取締役 窪田 弥生 社外 独立
 執行役員 桶谷祥太郎
 執行役員 大森俊介

● 監査役

常勤監査役 赤坂 英典
 監 査 役 成 清 雄 一 社外 独立
 監 査 役 藤田光博 社外
 監 査 役 梅田久和

I. 『株主お買物優待券』について

1. ご優待券の発行基準

2月末日および8月末日現在、100株以上ご所有の株主様に対し、次のとおりお買物優待券を発行いたします。

100株以上	300株未満	10枚
300株以上	500株未満	20枚
500株以上	1,000株未満	30枚
1,000株以上		50枚

2. 取扱店舗

本店、山口店、井筒屋サテライトショップ各店

3. 有効期限(今回発行分)

2022年11月30日まで有効

4. ご優待方法

①上記各店舗で現金による本体価格2,000円以上のお買物(適用除外品目および売場を除く)1回につき、消費税を含むお買物代金の7%を割引いたします(ただし、割引額の1円未満は切り捨て)。

なお、お支払いにつきましては現金、井筒屋商品券(井筒屋・井筒屋グループ発行の商品券)、井筒屋ギフトカードのほか、全国百貨店共通商品券、百貨店ギフトカードに限りです。

②1回のお買物につき優待券1枚のご使用となります。

③適用除外品目および売場

- 商品券、各種ギフトカード・進物券
- たばこ、はがき、切手、印紙、クオカード、図書カード、前売券、各種回数券
- 金・白金の地金、住宅(含関連工事)、保険料、駐車料金、荷具送料
- ルイ・ヴィトン、ロレックス、ティファニー、アーバンリサーチ、ビューティアンドユースユナイテッドアローズ、その他一部のブランドおよびショップ
- 家電売場、旅行センター、ブックセンタークエスト、モンベル、カフェコムサ、ボーコンセプト
- 代金引換配送、掛売入金および各種優待券との併用使用(友の会券・カード、ウイズカードとの併用はできません)
- 正札よりの割引商品
- その他特に指定したもの

なお、適用除外品目および売場につきましては、予告なく変更させていただきます場合もございますので、予めご了承ください。

※詳しくは店頭にて係員にお尋ねください。

5. お願い

ご利用の際には株主様のご署名をお願いいたします。

II. インターネットショッピング『井筒屋オンライン』でのお買物優待割引について

1. ご優待内容

①ご優待の基準

2月末日および8月末日現在、100株以上ご所有の株主様に対し一律。

②ご優待方法

インターネットショッピング『井筒屋オンライン』でのお買物(適用除外品目および売場を除く)1回につき、消費税を除くお買物代金の7%を割引いたします(ただし、割引額の1円未満は切り捨て)。

なお、お支払いにつきましては、クレジットカード1回払いのご決済のみとなります。

2. 有効期限(今回対象分)

2022年11月30日まで有効

※有効期限までは何度でもお買物にご利用いただけます。

3. ご利用方法

インターネットショッピング『井筒屋オンライン』(<http://www.izutsuya-online.co.jp/>)にアクセスすることでご利用いただけます。詳細につきましては本書同封の「株主ご優待制度のご案内」をご参照ください。

4. 適用除外品目および売場

前記I.『株主お買物優待券』についての4.ご優待方法の③に記載の適用除外品目および売場に同じです。

5. ご注意

- (1) 株主様ご本人の個人クレジットカード名義でのお買物に限らせていただきます。
- (2) 株主お買物優待券のご提示やご郵送の必要はございません。
- (3) 株主お買物優待券の他、各種特典割引との併用はできません。
- (4) 送料につきましては、割引の対象となりませんのでご了承ください。

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月に開催
剰余金の配当受領株主確定日	2月末日 その他取締役会決議により定める日
基準日	定時株主総会関係 2月末日 その他あらかじめ公告して定める日
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載します。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 ※貸借対照表および損益計算書につきましては、以下のアドレスに掲載しております。 http://www.izutsuya.co.jp/
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵送物送付先・電話お問合せ先	

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続 お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いたします。
		みずほ信託銀行 本店および全国各支店(※) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(※)およびみずほ銀行の本店および全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

上場証券取引所	東京・福岡
証券コード	8260
ホームページアドレス	http://www.izutsuya.co.jp/

ホームページのご案内

ホームページアドレス <http://www.izutsuya.co.jp/>

■井筒屋 TOP PAGE

井筒屋ホームページは、毎週の催物やサービス・施設のご案内から企業・投資家情報まで掲載しております。手軽にご家庭でもショッピングをお楽しみいただけます。

■企業・投資家情報

決算情報、株式の状況、ニュースリリースなど投資家の皆様への情報を掲載しています。

■井筒屋各店舗の最新情報

お買得情報やイベント情報、新着商品のご案内など、毎週お得な情報を満載してお届けしています。

■オンラインショッピング

ギフト商品や話題の商品を自宅から楽々、ネットショッピングできるオンラインモールです。

■WEB会員サービス

■WEBチラシ

※当画面情報は本紙作成時点のものです。



IZUTSUYA